

「根を張り防潮堤守って」

西区 高校生ら苗木を植樹



浜松市西区篠原町近くの防潮堤で十四日、市民や高校生ら約八十人が斜面にシイ、カシ、タブなどの苗木四百本を植えた。小雨のぱらつく中、参加者は約百二十分にわたりグループごとで作業にいそしみ「防潮堤をしっかりと守る木に育って」との願いを込めた。

作業をしたのは、二〇一三年から遠州灘で植樹を担ってきた六十の団体・企業からなるネットワーク「KALIA(から)」のメンバーや応募した市民、学

生たち。三、四年前に植えた木の一部が枯れてしまい、そうした所に新たに苗木を植えた。

植えた苗木は、一九七四年からホンダ浜松製作所などの部品組立を手掛けてきた知的障害者施設「進和学園」(神奈川県平塚市)で育てられたという。

浜松城北工業高校の環境部メンバーとして参加した二年、北島光瑠さん(むは)は「大きく育ってほしい。根をしっかりと張って、防潮堤を守ってくれたら」と話した。(勝間田秀樹)

防潮堤の斜面に木の苗木を植える高校生ら＝浜松市西区で